

佐渡米通信

こめる

2023年 10月号

発行日:2023年10月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snov.ocn.ne.jp

適期刈取りで品質確保

令和5年産米の収穫が9月初旬から始まりました。JA佐渡管内9か所の圃場で刈取り作業開始の目安が分かる刈取適期判定器を設置しています。刈取り指導会では高温登熟年の積算温度を目安に圃場にて黄化率を確認し刈取り時期を判断すること、丁寧な乾燥調製作業について説明を行いました。

今年度から籾の荷受け期間中カントリーエレベーターの混雑状況をWebカメラで配信します。カントリーエレベーターへ直接搬入する生産者の作業効率向上が目的です。JA佐渡管内での収穫作業は9月中旬にピークを迎え、10月まで続く見込みです。



圃場に設置された刈取適期判定器



刈取り後、籾を積んだトラックがカントリーエレベーターで順番待ちをする様子

カントリーエレベーター情報はこちら



佐渡の米農家さんにインタビュー

真野地区の中川竜也さんにインタビューをさせていただきました。中川さんはコシヒカリ、新潟次郎を約16ha作っています。高校時代に農業科目の成績が良く、先生の勧めもあって島外の農業大学校へ進学されました。就職活動の際、中川さんは農業に関連する企業への就職も視野に入れていたそうですが、お父様が農家になることを熱心に応援してくれたこともあり、就農を決心されたそうです。今年で17回目の米作りとのことですが、周りに比べると自分はまだまだと感じ、と笑って話してくれました。

中川さんは地域の若い担い手としても期待されていて、様々な地域の活動にも参加していることを伺いました。周囲からの期待に応えようと無理をして心労が重なったためか、体調を崩された時期があったそうです。療養中は精神的にも落ち込むこともありましたが、ご家族やご友人から支えてもらえて、農業に復帰できたそうです。

中川さんのやりたいことリストの中にはGAP(農業生産工程管理)の取得があるそうです。GAPは策定したルールに則って米作りの管理を行う取り組みです。JA佐渡でも農家さんのGAP取得の支援を積極的に進めており、佐渡米の競争力の強化に努めていく所存です。



「この圃場は10月半に収穫です」と丁寧に説明してくれる中川さん



真野地区



3月に集落の人たちと山に行き、江(水路)に溜まった土や草木を取り除きます。

田んぼの水源となっている山

適期刈取り!!

籾の黄化状態を確認し、品質や食味が最もよくなる適期に刈取りを行います



収穫の様子



黄金色に輝くコシヒカリ

